令和4年度

学校関係者評価報告書

学校法人増田学園千葉女子専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会
(R. 5. 2. 24)

令和4年度　学校関係者評価報告書

Ⅰ　重点目標について

○令和４年度の重点目標

豊かな感性と表現力を持った魅力あふれる保育者を育成する。

○達成計画・取組方法

1 授業研究・教材研究に積極的に取り組み、指導面での充実を図るとともに学びやすい環境を整備する。(地域貢献への取組も含む)
2 学生の資質や能力を最大限に引き出すための実践的な保育技術等の習得又は向上をめざす。
3 実習先との密な連携を図り、保育実習・教育実習・施設実習の充実を図る。

○学校関係者評価

※コロナ禍でも様々な工夫を凝らした学校運営、学生の健康管理や学びやすい環境の更なる整備など、よく取り組んでいることがうかがえる。今後も指導体制の更なる見直しを図り、教育活動の充実にもつながる教職員の研究・研修の場、地域の子育て等、福祉事業推進の拠点としての研修棟を有効活用し、保育現場の即戦力となる魅力あふれる保育者養成に教職員一体となって取り組まれることを期待したい。

Ⅱ　各評価項目について

基準1　教育目標・理念

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 本校の教育理念・目的・育成人材像については、学生、職員に対して周知されており、外部に対しては、見直されたＨＰや刷新された学校案内等で紹介し、その浸透に努めている。 2 保育科の教育目標、育成人材像についても、本校が特に重点をおいている表現活動やカリキュラムの充実を図りながら、本校としての特徴をオープンキャンパスでもアピールしている。	・学校案内も視覚的にとても見やすくなり、受験生へのアピールにつながったと思う。 ・新しいHPは全体的に明るいイメージで、夢や希望を感じられる内容でとてもよいです。 教職員の前向きな思いが評価の数値に表れている。 ・もっと若々しく華やかなアピールを高校生に向けてもよいかと感じる。	・卒業生や実習先との連携を一層図りながら、今求められている保育者像を追求し、その人材育成に努める。 ・新教育課程に基づくカリキュラムで実施して４年目が終わる。今後も主体的で共同的な学びを工夫し実践的な保育技術の習得に努めていく。５年度から一部新カリキュラム実施。

基準2　学校運営

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 年間事業計画にそった運営活動は、教職員の連携のもとで円滑に推進されているが、重複した業務の整理と専任教員の増員の必要がある。 2 授業科目ごとの出欠席や成績評価等の管理システムを導入し業務の効率化を図っている。多様な機能であるが、この部分を最大限活用し学生指導に役立てている。更なる周知を図りたい。 3 学生指導においては、学年単位での早期の個別対応により成果が出ている。職員会議を通して学校全体で共通理解を図り、連携した取り組みができつつある。	・業務整理と教員間の役割分担や担当授業時数のばらつきを整理できるとよいです。 ・学校をよりよくするための様々なアイディアを出して行っているのだと思います。 ・ＩＣＴ等、便利な機能は利用することで、拡がっていくと考えます。 ・学生指導については、個々に応じて対応、指導していただきたい。 ・何より先生方の笑顔がとても素敵です。さらに教職員間の連携を進めていただきたい	・教職員間の役割分担と運営機能の明確化を図り、引き続き、重複した業務を整理していく必要がある。 ・管理システムの導入により、学生ごとの各授業の出欠席や遅刻等の状況や気になる学生については、早期発見し２週間ごとに職員会議で共有できるようになってきた。 ・今後も学年と学校全体で一層連携を図り、個々の学生への対応を行うように努め、学生の生活指導に役立てていく。

基準3　教育活動

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 きめ細かな教育活動の実現を図るため、クラス担任制で授業を展開している。	・クラス担任制は生徒への細かい目配りができると思う。少人数だからこその魅力がある。	・情報処理の授業内だけではなく、日常の資料作成やレポート作成においても、パソコンの有効活用の指導に努める。
2 学習指導においては、保育者養成校であることをふまえ、具体的事例や実践的な内容に重点を置いて、より内容を精選しながら体系的に授業展開を行っている。	・パソコンやタブレットに触れ、現在の社会環境に見合う指導を進めてほしい。 ・学校をよりよくするための様々なアイデアを考え、実施されていると思う。	・1人1台購入したタブレット端末の導入により教育実習指導における子どもの行動場面の観察・分析に有効活用できている。動画作成や行事の記録にも活用している。
3 就職支援の一環として、公立保育園・幼稚園の就職をめざした公務員試験対策講座や面接指導を行い、合格者を出すことができた。また、千葉市民保協関係の合同説明会を実施できた・	・就職の選択範囲を広げるためにも、学生の居住地に近い保育所・幼稚園等合同説明会を今後も継続して実施していただきたい。	・約３０の保育所・幼稚園等の合同説明会を本校で行う際に卒業生も来校し、ブースごとに現場の生の声が聴ける機会があるが、継続と共に更なる工夫を凝らしていきたい。
4 ２年生が実習体験を１年生に報告する場を設定し、今後、実習に向かう心構えや実習についての理解を深めることができた。	・学年間の交流や情報共有はとても有意義である。千葉女子専門学校のよさ（実習が多いなど）をアピールするのがよいと思う。	・実習報告伝達会は、今後も工夫して行う。 ・教育実習に出るための要件を意識した日々の教育実践を一層推進する。
5 教員の資質・指導力の向上のため、各種研究会や講習会等への積極的参加と研究紀要原稿の執筆を奨励している。また、文科省や厚労省からの通知等をタイムリーに共有できた。	・積極的研修参加は、教員の資質向上に大きく貢献していると思う。ディスカッションや情報共有のため、研修会や講習会への参加に研究費を有効活用するとよい	・研究紀要の発行回数を増やしている。専任教員だけでなく、講師の先生方からも寄稿いただき、内容的にも充実してきた。 ・文科省通知等は今後も早期に共有する。

基準4　学修成果

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 保育園・幼稚園・こども園等からの求人件数が今年も1,600件以上となり、希望者全員の就職をめざして取り組んでいる。	・歴史と伝統のある学校は、雇用側から見ると貴重な学校なのではないか。それを最大限生かし、より良好な関係を築くことで、よさがアピールできるのではないか。	・引き続き、即戦力となる人材育成に努める。
2 コロナ禍で履修不足の学生には個別に補講指導を行いながら、卒業見込者全員に保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の両方を取得できるよう指導の徹底を図っている。	・他の学校がコロナ禍で実習に苦戦する中、附属こども園の存在は、とても有利だと思う。 ・学生にはできる限りの指導と支援を願いたい	・新型コロナの濃厚接触者となり、本年度も授業を欠席せざるを得ないケースが複数あり、該当者の補講については、今後も早めに対応するように努める。
3 進路変更等による退学者がでたが、個別指導や相談等をとおして、継続して学校生活が送れるよう、できる限りの環境支援を行ってきている	・授業や実習でつまづく学生には、個々に応じて丁寧な指導を行っていただきたい。	・退学者を出さないためにも、入学前の見極めを丁寧に行う。
4 就職後の職場で、即戦力として活躍できるように、保育者としての専門的知識、保育技術・技能の向上に努めた。	・２年間、よい環境下で学習できるので即戦力となりうる人材が多く育っていると思う。	・コロナ対策は本学でも常時換気, マスク着用, 手指消毒, 共有物の消毒等, 教職員が率先して実践し就職後にも役立つものになっている。

基準5　学生支援

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 クラス担任はじめ全職員できめ細かな就職指導やサポート体制をとっている。 2 コロナ禍による経済的に困難な学生に対しては、学費の分納や「学びの継続」のための「学生支援緊急給付金」の利用を紹介する等、継続して支援に努めた。 3 新型コロナ対策として、日々の健康記録と毎朝の検温の実施の継続と校内の感染対策に努め。年１回の健康診断も実施できた。 4 担任や関係職員、関係医療機関と連携し、保健医療体制をとっているが、学生の安全・安心の観点から、継続して保健衛生体制の充実が必要と考えている。 5 附属聖こども園との連携によるキャリア教育・職業教育を行うことができた。	・メンタル面など難しいこともあるが、細やかなサポート等、先生方の努力が感じられる。 ・個々の学生の精神面の健康状況を把握したり、相談にのったりするしくみが必要かと思う。思い出に残る学生生活を支援してほしい ・コロナ禍の経済的サポートは重要である。 ・大変な学生生活であったと感じます。保護者に対し、必要な連絡はタイミングを逸せず行えるようにe-paも活用できるとよい。 ・附属聖こども園との連携は学びの場として、また現場として活用していただきたい。	・学校生活における学生のメンタル面にも配慮しながら、保育者になるという目的を失うことのないようにサポートしていく。 ・研修棟を卒業後、教育支援ができる場としての活用も検討していく。 ・リーバを活用し、全学生の体調を把握することで、平常と違う状態であれば早めの対応（登校しない、検査を受ける）を行う。 ・定期健康診断に関わる千葉県民予防財団、実川眼科、校医である轟クリニックの茂手木医師、救急法基礎講習に関わる日本赤十字社千葉県支部との更なる連携強化を図っていく。 ・コロナ禍における附属こども園との連携の工夫改善が本年度も活かされた。

基準6　教育環境

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 映像教材が各教室できる学習環境や必要に応じて利用できる絵本や保育関係書を整理・整備し学びやすい環境の具現化に努めた。一人一台のアイパッドは、今後も観察実習や記録画像の発表等に効果的に活用できると考えている。 2 「環境教育」の一環として、四季折々の花を植え、花壇の整備を継続して行っている。 3 前年度に引き続き、３年目となっているが、毎日放課後、職員による教室、廊下、各階のフロアー、トイレの清掃を行い、環境衛生と美化に努めている。	・校内がとても清潔で、保育士をめざす学生が学ぶにふさわしい環境であると感じる。電子黒板等の設置は、授業改善にもつながり学生の活動機会が増えると思う。 ・保育の専門書の整備と読書の学生への啓発 ・自然への関わりとして、また大切な素材として、花壇への植栽は必要だと思う。 ・情操教育としても大切な教えとなると思う。 ・教員自らが清掃を行うことは大切なことですが、自分たちの教室は学生が当番制にしても行った方がよいと思う。現場では、保育者が消毒液の入ったモップで拭いている。	・教育課程に基づいた幼児教育に係る図書の整備を図り、絵本コーナーの充実を図った。今後も学習環境の更なる充実が必要である。次年度も1年生の観察実習には、ipadを計画的に活用し、個々の発表力を高めていく。 ・植栽の後、学生が当番で水やりを行っているが、引き続き、草取りなども進んで行えるような心を育てていきたい。 ・保育現場でも役立つことなので、学生も一緒に行うようにしたいが、そのタイミングがむずかしい。 ・業者による年２回の清掃・消毒は継続したい

基準7　学生募集

	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 学生募集については、募集担当の配置や高校への訪問、ホームページの活用、工夫を凝らしたオープンキャンパスの開催を継続的に行うことで、募集活動に努めている。 2 高校訪問や説明会を行うにあたり、継続して、高校２年生を対象とした広報活動に力点を置いて取り組んだ。 3 選考基準について明確に示し、その透明性を図り、選考や合否判定は適切に行っている。	・オープンキャンパスの感想から、皆さんよい印象を持っていると思う。HPのリニューアルにより、ますます好印象になると思う。 ・誠実な説明会を行っていると感じる。 ・学生を前面にだした広報活動はどうでしょう ・女子の専門学校ならではのよさを伝える。他校にはない女子の2年間を強くだせないか。 少子化で学生募集は厳しいが、教育環境のよさをアピールし、学生が期待する環境に整えたい。	・保育者の養成校としての実績をアピールしながら、引き続き学生募集に努める。 ・ＨＰや学校案内は、随時見直しを図る。 ・学校案内やホームページのツイッター以外にも気軽に内容を見ることができる３つ折りのコンパクトなパンフレットを作成し配布した ・オープンキャンパスを１１月、１月にも開催した。

基準8　財務

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 学生数や事業計画に則り、収支予算を計上し、財務基盤の確保に努めている。 2 予算執行にあたってのチェック体制は、学園本部で行っており、監査法人による監査を年３回受け、理事会等への報告をするなど、適切な会計処理に努めている。	・財務については、よくわからない。	・学校運営が円滑に進むように、引き続き予算面での有効活用と節減に努める。

基準9　法令遵守

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 教育課程の事後調査対応届を文科省に提出し、５年度より一部改正教育課程を実施予定 2 個人情報保護に関する規程や関係法令等に基づき、学生の個人情報等の保護の対策をとっている。	・文部科学省との連携ができていて、安心して学べる学校です。 ・適切に行われていると思う。	・教育課程編成委員会でもご意見を伺いながら法令に基づいた教育課程の編成を進める。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価	学校関係者評価・意見等	改善方策等
1 本年度もコロナ禍で文化祭の一般公開は中止となり、地域の方々の参加や招待ができなかった。また、近隣の保育園児を招いた交流も行えなかった。	・文化祭の非公開は残念ですが、その時できることをやる精神が感じられた。 ・子どもたちには経験が必要。コロナ対策をした上で、その機会を提供する努力をされたい	・文化祭の一般公開が行えるようになったら、引き続き、保育活動をとおして地域交流の充実を図る。
2 教職員の研究・研修及び福祉活動の拠点として研修棟を建設し、地域の子育て等、福祉事業推進を推進し、活動する準備を行った。	・福祉活動の拠点、教職員の研究研修の場として地域に根ざした施設を期待しています。 ・様々な活動に役立てばよいと思うし、職員が積極的に参加できる体制を望みます。	・福祉と保育の融合等、未来を見据えた教職員の研究及び研修の場として、有効活用を図る ・福祉・保育に関することの地域発信ステーションを目指す。地域、卒業生、同業者や福祉団体等への周知。ゼミ等、関心を持っている学生の力をさらに伸ばしていきたい。

学校法人 増田学園 千葉女子専門学校長 様

令和４年度の自己評価表をもとに学校関係者評価委員会の委員に評価を実施していただいた結果、上記のとおりとなりましたので報告します。

令和5年2月24日
学校法人増田学園千葉女子専門学校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会